

第3部 資料

1. 町内文化財の概要

■ 今石城跡 (いまいしじょうあと)

この今石城は、玉岡城(城主:帆保因幡守安重 現大津町)や須屋城(城主:須屋市蔵 現合志市)等と共に薩摩(鹿児島)の島津氏からの侵略に備えた、舌状丘陵の山城の一つであり、位置は今石神社とその後方台地と推定されています。

天正13年(1585)9月3日、島津方の将、川上左京亮と新納武蔵守は、大軍を率いて肥後に侵攻します。敵の大將・川上左京亮は、益城町本陣を置き、玉岡・今石城を攻め、石原野野介を総大将とした合志軍と、梅ノ木口の砦で一進一退の激戦を繰り返しました。しかし、今石は落城し、その後、敵の後を攻めていた新納武蔵守と共に合志城を攻め落とし、合志氏は滅亡しました。



■ 今石横穴群 (いまいしよこあなぐん)

この横穴群は、7世紀の中期から後期にかけて首長等の墓としてつくられたものと思われ、明治17年(1884)県道瀬田・竜田線の開通によって発見されたものです。当時は9墓が確認されたらしいですが、現在は2号墓、3号墓を残すのみです。

なお、県道開通時に2号墓の羨門部が削り取られ、第二次世界大戦時における防空壕の掘削で、それぞれの玄室(遺体安置室)の一部が欠損しています。また、どちらも単室・複床式横穴で、下流域の「つつじヶ丘横穴群」や「小碓橋際横穴群」等と同時代(古墳時代後期550~650)のものとして推定されます。



■ 馬場楠井手の鼻ぐり (ばばぐすいでのはなぐり)

菊陽町馬場楠の白川取水口から熊本市の東海学園前駅近くまで続く約12.4kmの農業用水路で現在でも多くの田畑に水を供給しています。

白川の南側に広がる「白水台地」は、川が流れる場所より一段高い土地であったため、ポンプや機械がない当時はその水を利用してお米や野菜を栽培することが困難でした。そこで、上流から人工的に水路を掘って新田開発が計画されます。

水路工事が完成すると9か村(当時)、約95町(約95ヘクタール)にもおよぶ農地に水が行き渡り、それまでの約3倍の収穫量をあげたそうです。(「勝国治水遺」鹿子木量平 著)

なお、造られた当時の記録は残されていませんが、加藤清正の肥後統治時代(慶長13年(1608)ごろ)に築造されたと伝えられています。その後、鹿子木量平(1753-1841)の著書により、馬場楠井手築造に関する時代や鼻ぐりの構造の通説が広まりました。



■ 六道塚古墳 (ろくどうづかこふん)

この塚の概要は、直径7メートル、高さ約3メートルで、未調査のため、断定はできないが、その形状、位置、地名、古代住居跡などからみて二段築成の円墳と推定されています。この塚の一角は、古くは唐川(辛川)原とよばれ、延元元年=北朝建武3年(1336年)8月18日、南朝方の菊池武敏・阿蘇惟澄連合軍と北朝方の将、今川蔵人大夫、託磨別当宗直、小代重峯、小代光信らが激戦をくりかえした古戦場としても知られています。また、弥生式土器の散布地としても知られ、多くの遺跡等が散在するところです。塚の上には楠の大樹がそびえ、その根元には「神石」が祀ってあります。この神石は、「さくらぎ神社」と称され、益城町寺中にある津森神社の末社と伝えられています。



■ 南郷往還跡 (なんごうおうかんあと)

肥後の国府「飽田府」は9世紀～14世紀末まで、古町村(現熊本市古町)にあり、政治・経済・文化の中心となっていました。この肥後の国府と阿蘇南郷とを結ぶ道路が南郷往還です。

南郷往還は、かつて、熊本市の長六橋を起点として、大江、保田窪、長嶺を経てこの道明に至り、西原村万徳、俵山を越えて阿蘇南郷谷、さらには、色見(阿蘇郡高森町)を経て、豊後竹田(大分県南西部)へ通じていました。当時は石畳が敷かれていたが、現在は、道明から高遊原台地に至る区間に約180mの石畳が残るのみです。

角にある追分石(道標)には、「左おふつ、右まんとく」の文字が刻まれており、すぐ横には、享保11年(1726年)建立の石地藏が道行く人の安全を見守り続けています。



■ 下津久礼六地藏 (しもつくれろくじぞう)

この六地藏は、室町時代(1400～1500)の作と推定されます。全高2.5メートル、宝珠(最上部分)、龕部(仏を6体刻んだ部分)は、後年の作ですが、傘・中台・幢身は当初からのものです。この六地藏は、現在地の南方約300メートル、通称「六地藏」の辻に建っていましたが、延宝6～7年(1678～1679年)のころの再三にわたる水難のため、村移りとともに窪田八幡宮の南方50メートル、村道の辻に移設されました。さらに、昭和46年(1971)区公民館の新築移転に伴い現在地に移されました。



■ 西園寺左大臣実晴男随宜之墓

(さいおんじさだいじんさねはるずいきのはか)

古閑原西端から北に農道を少しのぼった所に西園寺随宜を祀る神社があり、その境内中央部に玉垣で囲まれた墓碑があります。

この墓の主は、西園寺随宜朝臣(あそん)は、時の左大臣西園寺実晴の末子として京都に生まれましたが、生来、宮仕えを好まず、叔父にあたる長岡忠春の領分である入道水村の安福寺(阿弥陀堂)を仮の住居として、寛文5年(1665年)に移り住みましたが、寛文10年(1670年)8月15日、病にかかり静かに一生を終えました。

随宜朝臣の亡きあと、京都から井上伯耆が迎えの使者として派遣され、一人娘の須也姫をはじめ、侍女たちを京都へ連れ帰ったといわれています。



■ 井口眼鏡橋 (いぐちめがねばし)

この眼鏡橋は、馬場楠井手に架かる単一アーチ橋(石造)であり、昭和初期まで重要な生活道でありました。この橋の特徴は、輪石の接する部分に、すべて石楔(くさび)が使用されている点で、琉球式架橋法といわれ、県内でも極めて少ない貴重な石橋の一つです。この工法が用いられている眼鏡橋は、植木町豊岡にある豊岡橋(1802年)、御船町木倉にある門前川橋(1808年)がある。この2つの石橋の石工は、肥後の石工集団のリーダーである仁平(にへい)の弟子達の手によるものといわれている。井口眼鏡橋も同集団の手によるものと推定されます。

この橋も交通事情の変遷によって、東側1mが拡幅工事されており、東側の輪石は漆喰仕上げになっています。



■ 入道水眼鏡橋 (にゅうどうみずめがねばし)

この眼鏡橋は、本来、菊陽町原水を東西に流れる瀬田上井手の入道水菅原神社参道に架けられていましたが、県営瀬田上井手地区ため池等整備事業により瀬田上井手が拡幅されることになり、現地保存が不可能と判断されたため、菊陽杉並木公園ハス池に移設されました。なお、活用を考慮して復元の際に壁石・欄干が新設されていますが、特徴である真円に近いアーチ部は当時のままの姿を残しています。



■ 古閑原眼鏡橋 (こがばるめがねばし)

古閑原の南側を流れる瀬田上井手に掛かる単一アーチ橋です。以前は、重要な古閑原の生活道でしたが、昭和12年(1937)県道大津～植木線が開通したため、現在はあまり利用されなくなっ



ています。この橋は、井手の両岸が固い岩盤であることから、アーチの基礎は、井手底から約2.2メートル上方からはじまっている変形アーチ橋です。

■ 上津久礼眼鏡橋 (かみつくれめがねばし)

この橋は、津久礼井手(大アーチ)と瀬田下井手(小アーチ)の二つの流れに架かる町内唯一の二連式アーチ橋で、井手底が「津久礼井手側」は低く、「瀬田上井手側」は高いという、田地の実情に合わせて構築されていることです。昭和49年頃までは橋の南脇に自然石の碑文が建っていましたが、その後の護岸工事以後紛失しています。また、平成元年(1989年)の県営圃場整備事業実施により両井手がなくなり、それに伴い、この眼鏡橋も撤去される計画でしたが、現地を公園化し、そのままの状態で保存されています。



■ 若宮八幡宮の鳥居 (わかみやはちまんぐうのとりい)

若宮八幡宮は、安和2年(969年)山城国久世郡男山八幡宮から八幡大神を勧請※し、応神(おうじん)天皇とその御子、仁徳(にんとく)天皇と神功(じんぐう)皇后(息長足姫命(おきながたらしひめのみこと))併せ祀っています。以後700年余り白川右岸の地にありましたが、度重なる水難や疫病のため、延宝6~7年(1678~1679年)頃、村直りとともに現在地に移転建立されました。本殿前の二の鳥居には、「若宮社」の額が掲げられ石柱には「延寶八年正月吉日」「氏神當所移徙」の文字が刻まれ、遷宮と村直りの歴史を物語っています。



■ 蘇古鶴神社の楼門 (そこづるじんじゃのろうもん)

寛永12年(1635年)9月、鉄砲小路(てっぽうこうじ)の守護神として勧請された蘇古鶴神社の旧社地は、堀川の北方の杉山内にありました。明暦元年(1655)12月、新たに神殿を建立し遷宮されたのが現在の宮床です。祭神は、阿蘇一の宮・二の宮で菅原道真神を合祀しています。

名前の由来は、細川忠利公が鷹狩りでこの地に來られたとき、鶴が二羽(そこつ鶴)舞い降りてきたので、将来にわたり社号を阿蘇の蘇の字を鶴の上にかぶせて「蘇古鶴宮」と申し伝えたとのことです。この神社本殿前の参道に、町内唯一の楼門があります。奥行き3.06メートル、間口3.99メートルで、銅板葺きの二層建築です。門内には「奇岩窓神(くしいわまどのかみ)」、「豊岩窓神(とよいわまどのかみ)」の異名同体の二神が祀られています。



■ 馬場楠井手の取入口 (ばばぐすいでのとりいれぐち)

この遺跡は、慶長13年(1608年)、白川下流域の左岸を水田化するため、加藤清正公によって築造されたと伝えられています。

この取入口は馬場楠堰のすぐ隣にあり、特徴として岩を猪口(さかずき)の口のようにくり貫き、一定量の水量しか入れず、土砂をかき混ぜ排除する手法がとられています。後年、この設備が壊され、井手に土砂が堆積し、水の流れが悪くなりました。

馬場楠堰は、構築以来、何回か改修され、昭和28年6月の白川大水害後に現在はコンクリート造りの堰になっています。取入口は、一部補強されていますが今もなお健在です。この堰は、清正公に敬意を表してか、「清正堰」よも呼ばれています。

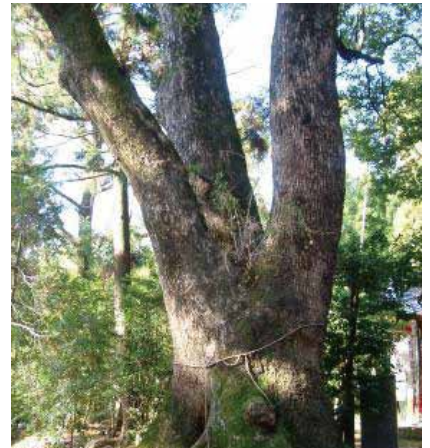
古い文献に、「此石井樋 長七間三尺 横壱間 高サ六尺五寸 落戸三枚」「積所幅撫シ五間 長サ六拾八間五合 内三間五合通 六拾後五間積所」とあります。



■ 入道水管原神社の楠 (にゅうどうみずすがわらじんじゃのくす)

入道水管原神社の境内にあります。地上2.8メートルで三幹に分かれ、さらに地上約8メートルで数本に分岐していますが、樹勢は極めて旺盛で町内随一の大樹です。

南側の根元に空洞があり、西側の「明治100年記念木」熊本緑化推進委員会(昭和43年12月建立)の標柱が立っています。



■ 鉄砲小路鳥栖家の木斛 (てっぽうこうじとすけのもっこく)

鉄砲小路鳥栖家の木斛は、鉄砲小路の東端にあります。細川忠利公が鳥栖家にお立寄りの時、この地に木斛が存在していたことが伝えられています。



■ 萬屋の楠 (よろずやのくす)

枯木新町(かれきしんまち)は、熊本藩主細川忠利公が寛永16年(1639年)豊後街道の宿場町として創設したところです。「萬屋」も当時の屋号に基づくもので、この樹木は、新町のほぼ中央、県道337号線北側の三島氏宅の前庭にあります。地上約18メートルで分岐していますが、それまでは直立で、素晴らしい樹勢です。樹下に「明治100年記念木」熊本緑化推進委員会(昭和43年12月建立)の標柱が立っています。

※細川忠利 寛永18年(1641年)没



■ 鈴木重俊氏宅の木斛(すずきしげとししたくのもっこく)

鈴木重俊氏宅の木斛は、上津久礼集落のほぼ中央にあります。



■ 下津久礼日吉神社の楠(しもつくれひよしじんじやのくす)

下津久礼区の東端、日吉神社の本殿前にあります。地上約8メートルで分岐するまで無傷で、樹勢は極めて旺盛です。春に黄緑色の小花をつけ、枝や葉に樟脳(しょうのう)の薫りがするクスノキ科の常緑高木です。神木として植えつけられたことにより、神社や仏閣で多く見られ、熊本県の県木でもあります。



■ 下津久礼日吉神社の銀杏

(しもつくれひよしじんじやのいちょう)

下津久礼区の東端、日吉神社の正面石段中央の東にあります。イチョウ科の落葉高木で神社や寺院に多くみられます。樹皮は灰褐色で浅く裂けており、歯は扇形で先端中央部は浅く又は切れ込み、秋は黄色になります。雌雄異株で、材は基盤・将棋盤・彫刻用に用いられ、種子の銀杏は食用に重宝されています。



■ 馬場楠の獅子舞い(ばばぐすのししまい)

お法使祭りの神事の際に舞われるのが、「馬場楠の獅子舞い」です。菊陽町では、馬場楠地区だけに受け継がれています。戦時中から戦後の混乱期に一時中断しましたが、有志各位の尽力によって復活し、現在に至っています。

この獅子舞は重厚な獅子頭をもち、獅子額に合わせて前後2人にて舞う勇壮な舞です。獅子のほかに、玉取り、三味線、笛、太鼓等総勢30名がこれにあたります。(舞妓7~8名、玉取り2名、三味線7~8名、笛7~8名、太鼓1名) 「獅子楽」としては、道楽・十善寺楽・松囃子(まつばやし)の5つの舞いからなり、余興として玉取りが行われています。



■ 上津久礼の川施餓鬼(かみつくれのかわせがき)

上津久礼は、もと白川中流域右岸に沿って開かれた、豊かな水田地帯として早くから栄えてきた所です。また、その反面、再三にわたる水難と人畜の悪疫に悩まされ、延宝6~7年(1678~1679年)ごろ、藩命により村をあげて現在地に移り住みました。その後も人畜の無病息災と追善供養を忘れず、今日まで受け継がれてきたのが「川施餓鬼」です。

この行事は、毎年8月19日に津白橋ぎわで祖先の碑前慰霊の



読経が行われ、その後、供物が「川の餓鬼」に施されて午前の儀式が行われます。午後からは、「施餓鬼船」が各組(区を6組に分ける)ごとに工夫し制作されます。これは最大3メートルもあり、麦わらで作られた船(馬をかたどったもの)に提灯と供物を飾り、川に流していましたが、現在は環境に配慮しグラウンドに並べるだけとなっています。

■ お法使祭 (おほしまつり)

お法使祭りは、毎年10月30日に行われる津森宮の祭りで、益城町、西原村、菊陽町、の12地区を順次一年単位で廻る、津森神宮(益城町寺中鎮座)の付属神事の一つです。御法使の当番区では、それぞれ「御仮屋」を建て、一年間御神体を安置し、翌年、次の当番区へ「受け、渡し」が行われます。

この祭りの特徴は、オホシサンを神輿に安置し、この神輿を受け渡し場所へ運ぶ途中に、道や田畑にころがす荒神輿で大変珍しい祭りです。

※オホシサン…天宇受売命(あめのうずめのみこと)(天の岩戸にお隠れになった天照大神にお出ましい頂くために岩戸の前で踊られた女の神様)といわれています。また、猿田彦命(みちしるべの神)という説もあります。



2文化財ツーリズムを支える交通インフラについて

▶主要地域とのアクセスが良好なハブ機能を有しています



〈 鉄道 〉 九州旅客鉄道(JR九州) 豊肥本線

- 光の森駅(敷地の一部が本町内) ● 三里木駅 ● 原水駅 … 町役場まで徒歩約10分

〈 道路 〉

■ 高速道 九州自動車道

最寄りインターチェンジ:熊本インターチェンジ … 町役場まで車で約15分。

■ 一般国道

国道57号
国道443号

■ 主要地方道

熊本県道30号大津植木線
熊本県道36号熊本益城大津線
熊本県道49号熊本大津線

〈 空港 〉

熊本空港 (阿蘇くまもと空港) … 菊陽町役場まで車で約10分

就航路線

■ 国内線

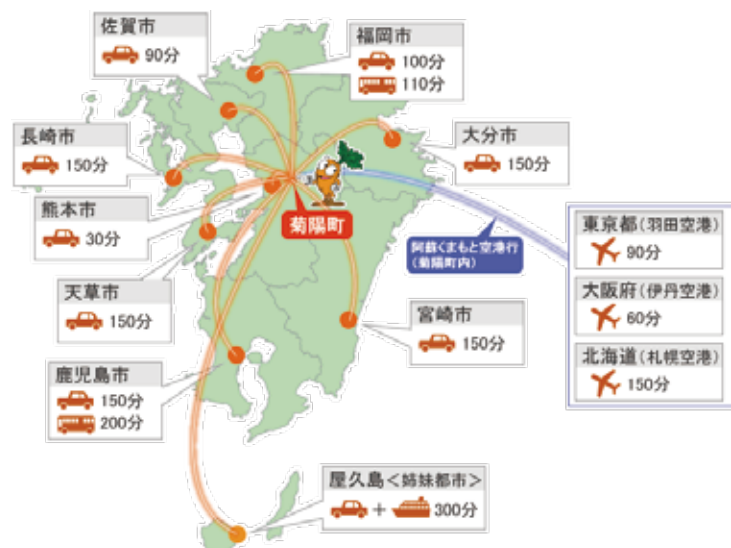
航空会社	就航地
● 日本航空 (JAL) [6]	東京国際空港、大阪国際空港
● 全日本空輸 (ANA)	東京国際空港、中部国際空港、大阪国際空港、那覇空港
● ソラシドエア (SNA) ・ 全日本空輸 (ANA)	東京国際空港
● 天草エアライン (AMX) ・ 日本航空 (JAL)	大阪国際空港、天草飛行場
● フジドリームエアラインズ (FDA) ・ 日本航空 (JAL)	名古屋飛行場[7][8]
● ジェットスター・ジャパン (JJP)	成田国際空港

■ 国際線

航空会社	就航地
● チャイナエアライン (CI)	台湾の旗 台湾・高雄国際空港 (高雄市)
● アシアナ航空 (OZ) ・ 全日本空輸 (NH)	韓国の旗 韓国・仁川国際空港 (ソウル)
● 香港航空 (HX)	香港の旗 香港・香港国際空港 (香港)
● ファーイー・スタン航空 (FE)	台湾の旗 台湾・台湾桃園国際空港 (台北) (2016年7月6日より)

主要都市からの本町までの時間

- 熊本市から ▶ 車 30分
- 福岡市から ▶ 車 100分
- 佐賀市から ▶ 車 90分
- 長崎市から ▶ 車 150分
- 大分市から ▶ 車 150分
- 東京 (羽田空港) から ▶ 飛行機 90分
- 大阪 (伊丹空港) から ▶ 飛行機 60分



3. 文化財を活かした地域活性化・ツーリズム等の事例

岐阜県白川村

白川村文化遺産活用観光マネジメント事業

世界遺産に認定された合掌づくりの建物群で有名な白川村では、この建物群を軸に各地区に伝わる民謡や踊りなど有形・無形の文化財を観光に活用する事業を実施。

〈事業の内容〉

① 地域の文化遺産普及啓発事業

白川村内の地域ごとに継承されている民謡の後継者育成と保存を目的に「白川村踊り街道フェスティバル」を実施。踊りをテーマに各地域の連携を街道としてPR。

② 地域の文化遺産継承事業

「白川村踊り街道フェスティバル」に合わせて伝統芸能継承者の養成講座を実施。各団体あたり2時間の講座を5回行った。

③ 地域の文化遺産継承事業

文化遺産を目的とした観光客の動態やニーズを把握するためのアンケート調査を村内を訪れた観光客を対象に実施。

静岡県掛川市

掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業

重要文化財「掛川城御殿」や歴史文化財が多く残されている掛川市では、歴史建造物が立ち並ぶ一帯を「歴史文化ゾーン」として整備するほか、宿場町文化、茶の産地としての茶文化、伝統工芸などを次世代に継承し観光事業への活用、市活性化への取り組みを行っている。

〈事業の内容〉

① 掛川市の文化遺産を活かした観光振興・活性化事業

掛川城を中心とした歴史文化ゾーンを全国に発信するために、同地区での将棋をテーマとしたまちづくりや、市内に300年伝承されている祭りばやしを子どもたちに技術・演技指導することで継承していく取り組み、同市の工芸品として以前は盛んに作られていた葛布を復活、活性化させる取り組み、お茶文化を継承させるための「市民茶会事業」などを実施。

② 掛川市の文化遺産を活かした交流型ツーリズム事業

既存文化資源への観光需要が低迷する現状の中で、掛川市に伝わる「報徳思想」や生涯学習、スロライフ等の精神文化をよりどころとした「交流型ツーリズム」の確立と内外への情報発信を実施。文化遺産が集積する中心市街地「歴史文化ゾーン」において、関連する文化施設運営機関や文化活動を行う各種団体との意見交換などを実施し、観光関係者、マスメディア関係者へのモニターツアーなどを実施。「交流型ツーリズムプラン」を策定した。まずは市民に向けた交流型ツーリズムの啓発活動を行っている。

古墳時代からの石の遺産が残り、江戸時代以降は、各地に石を送り出した石の産地として知られている小豆島では、石積みの土手で築かれた棚田や石切り場跡などたくさんの石にまつわる史跡があり、石とともに花開いてきた暮らし文化などに焦点をあてたツーリズム事業を実施。

〈事業の目標〉

文化遺産ツーリズムの実践によって、地域の知=文化と歴史を見つめ直し、再発見される魅力を後世に伝える”仕掛け”をつくる。

文化遺産は研究のためだけにあるのではなく、そこに住む人たちや後世の人たちのためにある。だから現地に住む方々とともに遺跡を整備、保存、継承していくべきではないかという考え方に基づき、島外からの来訪者が実際に調査研究に参加し、地域で交流する人の数を増やすことを目的。来訪者が情報を一方通行で受け取るのではなく、調査に参加することで来訪者自身が情報を生みだすと共に、現地ではできない「体験」を提供する。

〈事業の内容〉

「石の文化ロード」プラン

五カ年計画で文化遺産ツーリズムを実践し、小豆島東海岸に「石の文化」ロードを確立し、関係人口を増加させる。

- 石に関連するスポットを巡るツアーの実施
- シンポジウムの開催 ● セミナーの実施 など

1年目	地域の足固め	セミナー、ボランティアガイド養成、ニーズ・シーズの調査
2年目	各施策の始動	アシスタントテクノクラーツ制度準備、体験型ツーリズムの設計・始動
3年目	取り組みの評価 改善策立案	資格制度にて調査補助員活動、体験型ツーリズム評価、
4年目	定着化に向けた 改善実施	資格制度の評価、リピーターの確保、代理店との提携
5年目	取り組みの定着化へ	資格制度の拡大

三重県伊賀市 城下町の文化財を活用したまち歩き

上野城を中心とした武家屋敷など城下町の面影を今も色濃く残し、市内各地に歴史的・文化的な史跡建造物が点在している伊賀市では、それらの文化財を保存しながら互いに連携させて。観光資源や市民への生きた教材として様々な方法で活用。

〈事業の内容〉

① ウォーキングトレイル事業

市内各所に点在する文化的遺産や観光施設等、豊富な地域の宝物をつないで有機的に活用、町歩きが楽しめるまちづくりを進めるため、また、安全で快適な歩行環境を整備するため、市民ワークショップを開催しながら景観に配慮した地道風アスファルトや側溝改良、街路灯や防護策の整備、石材ベンチの設置等を実施。

② ふるさと学習スタンプラリーの開催

市内の文化財を地域の子どもたちに知ってもらうことを目的に、市内の子どもたちを対象に市内の文化財を繋いでのふるさと学習スタンプラリーを開催している。

③ 伊賀の文化の体験・発信地区

伊賀上野をもっと魅力と元気のあるまちにするため「町家あそび」をコンセプトに町家を飲食店、ギャラリーショップなどの複合施設として整備したほか、文化財をカフェとして活用などを行っている。

愛媛県宇和島市 四国の小江戸～宇和島文化発信プロジェクト

宇和島市には400年前に築城された宇和島城や江戸期の文化を象徴する数々の歴史文化遺産が継承されている。プロジェクトでは「江戸文化」をテーマに有形・無形の文化財を活用した取り組みを行うことで観光振興と地域の活性化を目指す。事業の推進にあたっては教育委員会文化課が文化財の取扱等に関する指導や調査を担当。商工観光課が観光業務に関する業務を担当するなど庁内横断の連携体制で実施。

〈事業の内容〉

① 宇和島市の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

地域の文化遺産情報発信「江戸文化」をテーマとしたホームページを作成。また市内のまちづくり系のNPO法人や観光事業者を対象に地域の文化遺産の活用や情報発信を行うための文化遺産コーディネーターの養成講座を実施。参加メンバーで先進地の視察、城下再発見のワークショップ等を行い、散策のためのガイドブックを作成。

さらに「宇和島・小江戸フェスティバル」を実施し歌舞伎役者の舞踊やトークショーを行った。

4. イベント展開例

旅の拠点。旅の通過点に。

本町は、JR豊肥線、空港、高速道路、など公共交通インフラが充実しており、熊本市と阿蘇の熊本の主要な観光地を結ぶ中間地という立地にも恵まれています。その立地と交通インフラをフルに活かし、そこに歴史・文化を組み合わせ「熊本観光ルートのハブ的存在」を目指します。本町を中軸に、近隣地域、そして阿蘇や熊本市への観光を組み立ててもらいます。



観光ルート途中で、ひとやすみ。

運転疲れで少し休みたい。
疲れた子どもを休ませたい。
食事したい。お茶したい。

行動・観光ルートの中心(ハブ)に

ここを拠点に観光地に行きたい
観光に必要なモノを買いたい。

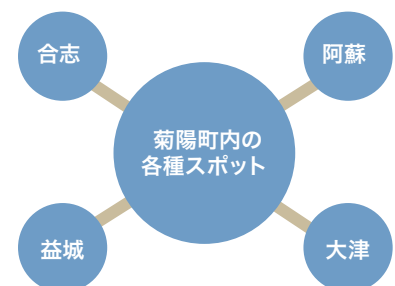
観光コースに取り入れたい。

観光地とつながっている。
立ち寄るメリットがある。
ちょうどやっている。

菊陽町と周辺地域を結ぶ周遊企画

「水の道・人の道・暮らしの道」めぐりラリー

菊陽町の文化財「水の道」「人の道」のストーリーにまつわる史跡や公園、水の恵みで生まれた農産物を使った料理等が味わえるスポットをまわると菊陽町の特産物が当たる!



※やまなみハイウェイ40周年記念で実施した周遊企画「やまなみ宝めぐり」。観光スポットを「宝」と表現し、宝探しという企画で観光客の回遊を促進した。

周辺地域の観光客も立ち寄りたくなる

人・暮らし・ぶらんちマルシェ

歴史文化と食を融合！菊陽町や白川中流域の水の恵み、歴史の恵みで作ったスイーツや食、地元の新鮮農産物などが集まって開催する「少し遅目の朝ごはん」をテーマとした朝市。

- 菊陽郷土料理コーナー（馬肉料理文化体験）
- 菊陽カフェ大集合
- 採れたて野菜市場
- 菊陽野菜ジュースバー
- 手作り雑貨コーナー
- おにぎりふるまい
- パン焼き体験



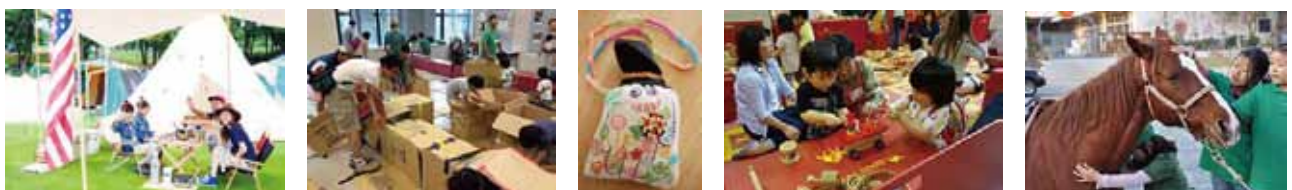
※毎月、毎週など、定期的に開催し定例化。周辺を訪れる観光客にも人気のスポットに。 ※写真はイメージです

家族みんなで楽しめるメインイベント

くらし旅のファミフェス

「鼻ぐり井手公園」「杉並木公園さんさん」「ふれあいの森公園」「光の森町民センター」の4つの会場で同時開催。「水」「人」「暮らし」のテーマごとに様々な体験やステージイベントなどを展開。菊陽町に古くから伝わる伝承文化や遊び体験など家族みんなで楽しめるフェスティバル。






















- 菊陽郷土芸能体験
- 懐かし遊び体験
- パパ村/段ボールハウスづくり、DIY教室
- ママ村/お菓子づくり、パッチワーク
- こども村/木の遊具、らくがきボード
- ステージ/音楽、ダンス、アニメ
- フィールド/ふれあい動物園、ふあふあ、おさがりマーケット
























※春と秋に開催する大型イベントで集客を集める。






















5. 近隣市町村の文化財

■ 大津町の文化財

名称	名称	名称
 <p>ワクト石遺跡</p>	 <p>杉水西光寺</p>	 <p>鎌倉屋敷跡</p>
 <p>今村天神</p>	 <p>杉水菅原神社</p>	 <p>片俣菅原神社</p>
 <p>無田原遺跡</p>	 <p>円満寺</p>	 <p>中窪田神社(初生神社)</p>
 <p>彦しゃん水車</p>	 <p>九万石城跡</p>	 <p>矢護川の水神(諏訪神社・諏訪水源)</p>
 <p>下中神社</p>	 <p>千人塚</p>	 <p>古城村城跡</p>
 <p>古城神宮</p>	 <p>淀姫神社</p>	 <p>多々良製鉄遺跡</p>
 <p>御所原・下猿渡六地藏</p>	 <p>大年神社</p>	 <p>仮宿天神</p>

名称	名称	名称
 上猿渡遺跡	 馬場観音堂	 弘化橋
 合志屋敷	 今城跡	 佐々木長綱の墓
 祝屋敷跡	 真木大神宮	 無動寺跡
 五里木跡	 清正公道	 丹防の吐
 御蔵跡	 手永会所跡	 御茶屋跡
 高札場跡	 人馬所跡	 大松山公園
 水月庵	 光尊寺	 日吉神社

名称	名称	名称
 浄正寺	 上井手・塘町筋	 松古関天神
 大願寺	 年禰神社	 室箕戸口門跡
 軽便鉄道停車場跡	 円通庵	 室町
 石造眼鏡橋	 室菅原神社	 苦竹古宮床
 灰塚護摩壇碑石	 灰塚水道水槽	 山伏塚
 天神森の棕	 窪田阿蘇神社	 横綱不知火光衛門
 銅鉾	 窪田日吉神社	 玉岡城跡

名称	名称	名称
 <p>上陣内石幢 六地藏(ろくんぞ)</p>	 <p>左馬どん供養碑</p>	 <p>江藤家住宅</p>
 <p>光徳寺</p>	 <p>奥の七塔</p>	 <p>中島日吉神社</p>
 <p>森駅記念碑</p>	 <p>岡本家住宅</p>	 <p>森村神宮</p>
 <p>甕(こしき)神社</p>	 <p>岩坂五輪塔</p>	 <p>岩坂経塔</p>
 <p>大林古墳群</p>	 <p>大林の牛舞</p>	 <p>上井手取入口</p>
 <p>瀬田裏遺跡</p>	 <p>瀬田妙見神社</p>	 <p>下井手取入口</p>
 <p>岩戸神社</p>	 <p>阿蘇北向き原生林</p>	 <p>外牧代官所跡(東福寺)</p>

名称	名称	名称
 南郷往還入り口	 外牧阿蘇神社	 錦野菅原神社
 南郷堀	 吹田神宮	
覚音谷(かくおんだに)横穴群		



















■ 合志市の文化財

名称	名称	名称
 今町座組阿弥陀如来像	 二子山石器製作遺跡	 天神平の樟
 黒松古墳群	 医音寺跡	 竹迫城跡
 虚空蔵さん	 須屋神社・須屋神社三十六歌仙絵馬	 竹迫日吉神社 楼門及び社殿
 須屋神楽	 合志町高千穂神楽	 竹迫初市

名称	名称	名称
		
須屋小屋地蔵祭	弘生ウソ替祭	竹迫観音祭


















■ 南阿蘇村の文化財

名称	名称	名称
		
五足の靴の歌碑	古代住居跡	河陽F遺跡
		
十六羅漢窟	柏木谷遺跡	阿弥陀如来座像
		
千手観音	十一面観音	六地藏
		
馬頭観音	長野の岩戸神楽	阿蘇五岳太鼓
		
久木野太鼓	南阿蘇村祇園の岩戸神楽	大阿蘇名水太鼓

名称	名称	名称
 立石稲荷社	 足手荒神社	 西宮神社
 卯添神社	 久木野神社	 八坂神社(北山神社・祇園社)
 日吉神社	 上久木野神社	 濁川橋
 黒川橋	 群塚神社	 長野阿蘇神社
 銭瓶橋	 野口雨情の民謡碑	 若山牧水夫妻歌碑
 西南の役慰靈碑	 落合直史孝女白菊の詩碑	 赤瀬伝吉の墓碑
原尻神社		

■ 益城町の文化財

名称	名称	名称
 馬水権現神社	 覚 木山氏略系図之写	 大宰府天満宮連歌屋記事
 赤井城跡	 木崎荒帆神社	 木崎の獅子舞
 砥川阿蘇神社	 砥川の獅子舞	 風雲山重福寺阿弥陀石仏
 砥川疎水	 飯田山常楽寺	 秋永遺跡
 神楽社	 猫伏石	 府内古閑権現社
 葉山古墳	 古閑地藏堂	 妙見神社
 馬水狐塚古墳	 木山神宮	 道安寺跡

名称	名称	名称
 木山城跡	 城の本古墳群	 南の獅子舞
 大楠山安養寺跡	 愛宕堂	 左の目八幡宮
 尾峰山福田寺跡	 鬼の窟古墳	 柳水石橋
 津森神宮	 お法使祭	 潮井神社
 四賢婦人記念館	 津森城跡	 千光寺本尊
 碑伝(影向石)	 宝篋印塔(稚児の塔)	
古閑遺跡・古閑北遺跡	木山神楽	福原横穴群
城山銅山跡		

■ 熊本市の文化財

名称	名称	名称
 熊本城	 細川家舟屋形	 水前寺成趣園
 古今伝授の間	 旧細川刑部邸	 清正公下賜の扇子
六殿神社楼門	旧第五高等学校	熊本大学工学部
木造僧形八幡神坐像並びに木造女神坐像	木造東陵永ヨ禅師倚像	木造十一面観音立像
短刀 銘光世	巴螺鈿鞍	梵鐘
蒔絵調度類	肥後阿蘇氏浜御所跡出土品	台付舟形土器
紙本墨書寒巖義尹文書	紙本墨書日本紀寛宴和歌(上・下)	阿蘇家文書
細川家文書(二百六十六通)	熊本城跡	熊本藩主細川家墓所
千金甲古墳(甲号)	千金甲古墳(乙号) 目	釜尾古墳
池辺寺跡	御領貝塚	塚原古墳群
阿高・黒橋貝塚	熊本藩川尻米蔵跡	西南戦争遺跡
藤崎台のクスノキ群	スイゼンジノリ発生地	立田山ヤエクチナシ自生地
矮鶏	タンチョウ	下田のイチョウ
船底五輪塔附板碑	円台寺の石造笠塔婆	大慈寺の層塔(永仁五年銘)
大慈寺の層塔(無銘)	大慈寺の宝篋印塔	大慈寺の宝塔(元仁元年)
洋学校教師館	本光寺の笠塔婆の塔身	紙本著色出山釈迦図及び観世音菩薩図
紙本水墨雀竹図	絹本著色阿弥陀三尊図	絹本著色阿弥陀三尊来迎図
紙本著色宮本武蔵像)	竹林七賢図屏風	木造釈迦如来坐像及び両脇侍立像
木造馬頭観音立像 木造及び銅造懸仏	木造獅子頭	短刀 祐定(付清正拵網代鞘)
太刀 元国	太刀 国次(付素銅兵庫鎖太刀拵)	工芸品 太刀 延寿国日出
刀 同田貫正国	刀 雅楽助	刀 延寿宣勝
脇差 石貫景介	脇差 同田貫上野介	なぎなた 兵部
鐺 林又七作 遠見松透	鐺 林又七作 九曜桜紋透	鐺 志水甚五作 茶筌図
鐺 志水甚五作 梟図	鐺 西垣勘四郎作 窓桐透	鐺 西垣勘四郎永久作 銀二引九曜桜紋透
鐺 平田彦三作 鉄三光透	鐺 平田彦三作 素銅木瓜形	鐺 神吉楽寿作 雨竜透金渦象嵌
武蔵鐺	勝色緞具足	腹巻大袖添
活人形谷汲観音像	尚書正義版木	切支丹銅鐘

名称	名称	名称
銅造 五鈷鈴	銅造 独鈷杵	紅糸威腹巻 附鎧櫃
出雲風土記	豊後風土記	伊勢物語
源氏物語	古今和歌六帖	歌合類聚
十首歌合	百番歌合	幼童抄
連歌作法書	和訓押韻	新撰万葉集
幽斎公・三斎公御筆謡本	太鞍秘伝抄	詠歌大概抄・秀歌大略抄
俊成卿・定家卿両筆歌切	新勅撰和歌集	天正廿年詠草
菊池万句	獨行道	肥後国検地諸帳
曾畑遺跡出土植物質資料	磁州窯系鉄絵壺	領内名勝図巻
小堀流踏水術	武田流(細川流)騎射流鎗馬	肥後神楽
西福寺の庚申塔	大江義塾跡	浦山横穴群
大慈寺境内	稻荷山古墳	明德官軍墓地
つつじヶ丘横穴群	円台寺磨崖仏群	慈恩寺経塚古墳
七本官軍墓地	寂心さんの樟	滴水のイチョウ
明治天皇小島行在所	小泉八雲熊本旧居	四時軒
徳富旧邸	金子塔	正平塔(石燈籠)
安元元年笠塔婆(屋蓋部分)	成道寺六地藏塔 二基	成道寺五輪塔
成道寺板碑群	木部六地藏塔	林田左京亮逆修板碑
池辺寺関係石造物	日向六地藏塔	奥古閑六地藏
四方寄六地藏	平井宮庚申塔	御馬下の角小屋
近代建築物(衛兵所)	清田家住宅附細川忠興知行宛行状他9点	鞍掛字阿弥陀堂の板碑
豊岡の眼鏡橋	高の石造六地藏塔	高の石造宝塔
七所宮の石造宝塔	服部の五輪塔	砥石の宝篋印塔
田原の五輪塔附板碑	舞尾の六地藏板碑	如意輪観世音菩薩像
木造釈迦如来坐像	木造三十三観音厨子入り	池辺寺仏像
木造虚空蔵菩薩坐像	面木木造十一面観音坐像	嶽麓寺銅造誕生仏
江月院銅造誕生仏	増福寺銅造誕生仏	紙本着色沢村大学画像
池辺寺縁起絵巻	加藤清正公肖像画	紙本墨書成道寺記
池辺寺古文書	本覚院殿(加藤清正側室)墓出土品	越州窯青磁水注及び同伴須恵器(塔ノ本遺跡土壌墓出土品)
中村家文書	尾跡地藏講帳・恵美須祭礼帳・西之宮講帳	河内町役場文書
津波供養塔	津波供養碑	津波供養碑(蓮光寺)
津波供養碑	熊本城出入鑑札	池辺寺伝来宝物
松尾焼	肥後ちゃんかけ	肥後神楽(上南部)
肥後神楽(平山)	銭太鼓踊り	柚木神楽
立福寺神楽	明德神楽	白浜岩戸神楽

名称	名称	名称
野出春日神社大神楽	大多尾大神楽	新町獅子舞
清水菅原神社神楽	天福寺裏山古墳群 付学承院跡宝篋印塔	富ノ尾古墳
水前寺廃寺跡	健軍神社杉馬場	健軍神社境内
檜崎山古墳群	千金甲丙号古墳群	城山古墳群(一の塚・二の塚・三の塚)
細川忠利公火葬地	肥後出水国分寺塔心礎並礎石	明治天皇御幸御野立所
明治天皇小島行在所跡	四時軒跡	渡鹿菅原神社境内
木部地藏堂敷地(道伝寺跡)	百梅園跡	夏目漱石内坪井旧居跡
山伏塚	花崗山陸軍埋葬地	釣耕園
叢桂園	井上横穴群	塩屋北ノ崎古墳
差茂塚古墳	砂鉄水路跡(2ヶ所)	加藤家墓地
道家之山の墓	嶽麓寺跡の中世石造物群	畳ヶ石
平阜支石墓	高熊古墳	陳内廃寺跡
陳内瓦窯跡	瑞巖寺跡	天社宮の大クスノキ
旧代継宮跡大クスノキ	釜尾天神のイチイガシ	河内晩柑原木
徳王の桜	宮原菅原神社のイチイガシ	早野ビル
九州学院高等学校講堂兼礼拝堂	九州女学院高等学校本館	熊本市水道記念館(旧八景水谷貯水池ポンプ場)
長崎次郎書店	今村家住宅	熊本大学本部(旧熊本高等工業学校本館)
熊本大学医学部山崎記念館(旧熊本医科大学図書館)	ピーエス熊本センター(旧第一銀行熊本支店)	熊本学園大学産業資料館(旧熊本紡績電気室)
マミフラワーデザイン熊本教室花峰館(旧鐘淵紡績熊本工場診療所)	熊本ルーテル学園神水幼稚園園舎	富重写真所
慈愛園モード・パウラス記念資料館(旧宣教師館)	浜田醤油店舗	浜田醤油主屋
浜田醤油洋館	浜田醤油三番蔵	浜田醤油旧圧搾機室
浜田醤油旧原料倉庫	浜田醤油旧石室	浜田醤油給水塔
浜田醤油煙突	リデル、ライト両女史記念館	本妙寺仁王門

【発行機関】

菊陽町教育委員会生涯学習課

【編纂委託会社】

株式会社 熊日広告社

【編纂協力者】

菊陽町文化財保護委員委員長	上村 隆一
菊陽町文化財保護委員副委員長	前田 千佳子
菊陽町文化財ボランティアガイドの会会長	矢野 誠也
菊陽町南小学校校長	柴田 敏博
菊陽町総務部総合政策課	
菊陽町産業建設部商工振興課	
菊陽町産業建設部都市計画課	

平成28年3月